



小学校授業実践報告

ユニセフ募金でキャベツのプレゼント

和歌山県みなべ町立上南部小学校

教諭 南かよ子・石井尚之



はじめに

ボランティア活動に力を入れている本校では、5年生が遊休地を活用して野菜作りをしました。本年度の最後となるキャベツの収穫時期をむかえ、生徒と教師がアイデアを出し合った結果、日

ごろから学校を上げて取り組んでいるユニセフ募金と連動させた活動を計画しました。

活動計画

- 町所有の遊休地で、ダイコン・ハクサイ・キャベツの野菜作りを計画
- 学校給食に収穫したダイコン・ハクサイを使用する
- 世界には十分ご飯を食べられなかったり、病気で死んでいく子がたくさんいることを知る
- キャベツの収穫にあわせ「何かボランティア活動に生かせないか」話し合い、ユニセフ募金とリンクさせることを考える
- Aコープみなべ店で募金活動を行い、協力して下さった方にキャベツを渡す

学習展開

野菜作りに挑戦

野菜作りは、町で所有している東吉田地区内の遊休地を借り、5年生が畑にしてJAみなべいなみの職員の方の指導を受けるなどして挑戦しました。そして、これまではダイコンやハクサイをつくり、収穫して給食に使っていましたが、5年生として最後となるキャベツの収穫を前にして、「何かボランティア活動に生かせないだろうか」と生徒と教師が話し合いました。また、5年生は、社会科と総合的な学習の時間にユニセフについての学習をして、「世界には十分にご飯を食べられなかったり、病気で死んでいく子どもがたくさんいて、募金がワクチンや薬の購入に使われること」を学びました。そして、「多くの人に協力してほしい」ということがクラスで話題となりました。



キャベツの収穫

ユニセフ募金の呼びかけ

キャベツの収穫に挑戦した児童たちは「こんなに大きなものが取れたよ」とはしゃぎ、一つずつビニール袋に入れてAコープみなべ店の2カ所に設置したテーブルに募金箱とキャベツを並べ、買い物にきたお客さんに「ユニセフ募金に協力をお願いします」と呼びかけました。そして、協力してくれた人にキャベツを手渡し、「ありがとうございます」と元気な声でお礼を言いました。募金してくれた方も思わぬ贈り物に笑顔があふれていました。街頭での募金活動はほとんどの児童が初めてで、「楽しい!」と声を弾ませていました。



ユニセフ募金

まとめ

子どもたちの野菜作りは、JA職員の方の指導を受けて行われました。収穫では誰もが、立派に実った野菜に感動し、募金活動に胸をふくらませて望み、多くの方から募金していただきました。ま

た、多くの人の協力や笑顔をいただき、子どもたちは、達成感を味わうことができました。この活動を通して、子どもたちのやさしい心が育ってくれることを期待しています。